

資料室だより 1 2 3

小編成の宗教合唱曲の新刊を5冊ご紹介します。ラインベルガーを除きすべて近代フランスです。

*Poulenc, F: *Salve Regina* 混声4部

美しい宗教合唱曲をたくさん残しているプーランクですが、このサルヴェ・レジナは有名なグレゴリオ聖歌の旋律に基づいていません。テキストからのまったく自由な創作です。しかし最後の行になる *O dulcis virgo Maria* の部分は「コンプレトリウム(終課)の様式で最後まで甘く、澄み切った音で」と楽譜に記され、典礼のなかにあるアンティフォナを念頭に置いて作曲されている歌であることを想起させます。

*Duparc, H: *Benedicat vobis Dominus* ソプラノ、テナー、バリトン

デュパルクはセザール・フランクにピアノや作曲を習っておりますが、宗教作品はほとんどありません。これが唯一ではないでしょうか。フランス歌曲が有名ですが比較的若くして作曲をやめています。神経衰弱のためと言われていました。静かに水彩画やパステル画を描いていたそうですが不運にも失明します。そしてポール・クローデルやフランシス・ジャムとルルドに巡礼に行き、深い神秘体験をします。ここに紹介する唯一の宗教作品は病気になる前の34歳のときのもので3声の小編成の小さな楽曲。そして彼自身の息子に捧げています。

*Langlais, J: *Regina coeli* 同声2声とオルガン

ラングレはオルガン曲はたくさん所蔵していますが声楽曲を購入するのは初めてです。女声2部とオルガン(マニュアルのみ)の小曲で作品表にも載っておりません。従姉妹のために書かれていることから家庭用に楽しむための作品と思われる。

*Langlais, J: *Drei Marianische Abtiphone* ユニゾンとオルガン

これは非常に面白いので是非みなさんにも試していただきたいです。マリアの大アンティフォナを *Regina caeli*, *Ave Regina coelorum*, *Salve Regina* の順にユニゾンで(ソロでもよし)メドレーのように歌っていきます。旋律はグレゴリオ聖歌そのままですがそれにオルガンの複雑な伴奏が付きます。ラテン語だけでなくドイツ語でも歌えるようになっています。

*Rheinberger, J.: *Missa in g op.187* 女声3部とオルガン(木島先生寄贈)

2ソプラノ、アルト、オルガンのためのミサ曲です。

(杉本ゆり 記)